



人形を使って心肺蘇生法を学ぶ生徒たち

# プロから蘇生法学ぶ 八学光星で救命講習会

八

八戸市の八戸学院光星高校(小野崎龍一校長)は23日、医療や福祉を専攻する生徒を対象に普通救命

講習会を開いた。約100人が参加し、心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の操作法を学んだ。講習会は、目の前で傷病者が発生した際に生徒たちが

が迅速な行動を取れるよう、同校が毎年開催。八戸東消防署の署員を講師に招き、座学や実技で必要な知識を身に付けている。

25日の講師は、同署第二救急隊の救急救命士・長谷川哲也さん。生徒たちに「救急隊が到着するまでの間に適切に処置することで、傷病者の社会復帰率は倍近くに上昇する」などと、応急処置の重要性を説明した。

実技では、生徒たちが急病人に見立てた人形に「大丈夫ですか」と声を掛けながら、周囲の人に119番通報を求め、呼吸がいない場合に人工呼吸と胸骨圧迫を繰り返し、必要に応じてAEDを使用するといった手順を確認した。

将来は救急救命士になりたいという福祉コース2年の別府優菜さん(17)は「いざというときに冷静な行動を取れるよう、学んだことをしっかりと身に付けた」と話した。(工藤俊介)